

平成22（2010）年度
熊本大学大学院法曹養成研究科

第2次募集

（小論文試験問題）

試験時間 120分

頁・・・ 1～4

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、問題用紙を開いてはいけません。
2. 試験開始後ただちに、問題用紙（この表紙を含めて5枚）、解答用紙（4枚）、下書き用紙（4枚）が、揃っていることを確認してください。
3. 解答用紙のすべて（4枚）に受験番号を記入してください。なお、氏名は記入しないでください。
4. 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入してください。解答用紙のホッチキスは、外さないでください。
5. 配付された解答用紙は、持ち帰ってはいけません。
6. 試験終了後、問題用紙および下書き用紙は持ち帰ってください。

課題文を熟読して、設問に答えなさい。なお、この試験は論理的思考能力、表現力などを評価するためのものであり、法的知識の有無を問うものではありません。また、憲法その他法律の解釈適用に関わる問題について解答を求めるものでもありません。

《課題文1》

(この部分につきましては、著作権の問題により、公開できません。)

(出典：山田卓生『私事と自己決定』日本評論社、1987年)

問1 法律によるヘルメットの着用強制に関する《課題文1》を参考にしながら、シートベルトの着用強制について、反対派の論拠を類推しなさい。(200字以内)

問2 シートベルトの着用強制を推進する立場から、問1で解答した反対派の論拠を反駁しなさい。(300字以内)

《課題文2》

(1)

(2)

(この部分につきましては、著作権の問題により、公開できません。)

(出典：竹内靖雄『経済倫理学のすすめ』中公新書、1989年)

【設例】麻薬や覚醒剤などで身を滅ぼすのはその人の勝手であって、麻薬や覚醒剤などの取引を禁止することで薬物汚染から守ってやろうとするのは「道徳の名による強

制」あるいは「余計なお節介」ではないか。

問3 《課題文2》の筆者は、【設例】に対してどんな答えを出すと考えられるか、《課題文2》(1)(2)の視点から推測しなさい。また、その答えに対するあなたの意見を述べなさい。(600字以内)